

令和4年度第3回堺市北区政策会議 会議録

日 時：令和5年3月10日（金）10時から11時40分まで

場 所：堺市北区役所3階302会議室

出席者：【構 成 員】（敬称略）天野隆次、魚谷守信、加我宏之、金戸郁子、清水苗穂子、竹内裕賀、長尾永子、羽根恵子、坊農豊彦、八木則之、吉村登志子
（以上11名出席）

【特別構成員】（敬称略）光武早弥香（以上1名出席）

【事 務 局】垂井究（区長）、松尾恵子（副区長）、金本龍二（北保健福祉総合センター所長）、緒方剛（自治推進課長）、宮田大志（学校連携支援担当課長）、村田博史（子育て支援課長）、山本美佐子（北保健センター所長）、羽野敏博（地域福祉課長）、樋口年秋（堺市社会福祉協議会北区事務所長）、林大輔（企画総務課長）、増川哲（企画総務課企画係長）、早坂順司（自治推進課自治安全係長）、竹内香奈子（子育て支援課主査）、阪本勇一（企画総務課）

会 議：公開会議

傍 聴：傍聴者数0人

1 開会

2 特別構成員紹介

○事務局（阪本） 今回から新たにご参画いただく特別構成員のご紹介をいたします。

参考資料1の特別構成員一覧をご覧ください。子育てファミリーのための防災ブック制作メンバーで、防災士の光武特別構成員です。光武様は子育てをする立場から見た有益な防災情報を同じ子育て世帯に届けたいという思いから、参考資料2子育てファミリーのための防災ブックを他の防災士ママさんと一緒に作成されました。また、この防災ブックの内容をより多くの子育てファミリーの方々に広めるため、子育て世帯向けの講座「おやこt o ぼうさい」を北区役所との協働で定期的を開催するなどご活躍されております。参考資料3では光武様を含めた防災士ママさんたちの活動などを紹介しておりますので、後ほどご覧ください。また、「おやこt o ぼうさい」の開催状況などは参考資料4をご参照ください。それでは、光武様一言ご挨拶よろしく申し上げます。

○光武特別構成員 光武早弥香と申します。よろしく願いいたします。私は現在3人の子育てをしており、小学1年生、年長、年中と3人の子どもを育てております。堺市には結婚を機に住み始めました。馴染みのない環境で子育てをする中、防災についていろいろ考えた際に、自分のような立場の方々の方力になればと思い、この防災ブックを制作しました。また、

子育て世帯向け防災講座も主催しており、直近の予定では3月13日に北区役所3階302会議室にて講座を実施します。0歳児がいる子育て世帯向けに募集したのですが、10組の募集枠に対し、既に10組の応募があり、ありがたく思っています。

このような活動を通じて、子育て世帯の方々が不安に思うことを少しでも解消できればという思いと、もし大きな災害が起きた際に、一人でも多くの方々の命が救えたらという思いをこの防災ブックに込めております。よろしくお願いいたします。

3 会議報告

《事務局から配布資料の確認、会議の公開についての説明、傍聴人数の報告》

4 議事

○加我座長 大阪公立大学の加我です。それでは会議を進めます。まず案件1、前回会議の振り返りについて、前回会議の場で構成員の皆様からいただいた子育てに関する新規事業案に対するご意見の受け止めと、今後事業を実施する際の方針について事務局で検討した内容の報告があります。それでは事務局から説明をお願いします。

○事務局(阪本) それでは、昨年11月11日に北区みんなのまちビジョンに関する子育て支援施策をテーマに開催した会議で、構成員の皆様からいただいたご意見を受け、事務局として検討したことについてご報告させていただきます。

前回の会議では、子育てに関する2つの意見聴取テーマ、子どもの生きる力を育む支援、孤立を防ぐ子育て世帯間や地域等のつながりに関する3つの想定事業案を事務局よりご提示させていただき、それらの案に対して構成員の皆様から有益なご意見をいただきました。前回会議でお示した3つの想定事業案に対する主なご意見の抜粋については参考資料5を適宜ご参照ください。

まず、1つめの想定事業案、生きる力を育むプログラム事業。2つめの想定事業案、子ども向けアンガーマネジメント事業について子育て支援課よりご説明させていただきます。

○事務局(村田子育て支援課長) それでは、1つめの想定事業案、生きる力を育むプログラム事業についてご説明いたします。前回会議では、子ども食堂以外の小学校や保育園などに実施場所を増やし、実施回数も増やしてはどうかとのご意見がありました。今回、子ども食堂に協力を依頼したのは調理設備を有しているため、また、実施後も子どもとの地域のつながりを継続させたいためです。構成員の皆様からいただいた多くのご意見のとおり、実施回数、実施場所とも十分なものではないと認識しており、小学校区など各地域での実施や継続性のある実施回数への拡充を将来的にめざします。初回実施となる次年度は試験的に子ども食堂3か所で実施を予定しておりますが、実施後、課題を検証するとともに、場所や回数についても本事業をより効果的に実施できるよう検討していきます。子ども食堂では通常の開催内容との差別化を図っていただくため、通常開催日とは別日とし、また、大学生ボランティアスタッフの協力が得られる夏休み期間中に実施する必要があります。現段階ではこの条

件を満たし、調整がついた子ども食堂での夏休み期間中、合計3回実施を予定しております。その他、事業名称は子どもたちが参加したくなるようなものを検討し、「わくわく教室」に決定しました。また、募集方法については、北区内の全小学校でのチラシ配布とともに、担任の先生に気になるお子さんがおられる場合、お声かけいただくよう教育委員会への依頼を予定しております。さらに、将来的には保護者はもちろん地域や保育園との連携も図り、周囲の大人たちを巻き込んだ子どもの育成支援ができるよう取り組んでまいります。

続きまして、2つめの想定事業案です。子ども向けアンガーマネジメント事業についてご説明いたします。前回会議では、子どもがアンガーマネジメントを受講する意味。実施場所の拡充。受講の仕方。事業名称についてご意見がありました。受講意味については、年齢相応に感情を表現させることは子どもにとって大切ですので、怒りの制御方法ではなく、表現方法を学ぶことを目的とし、円滑な人間関係形成に役立てられる事業にしたいと考えております。実施場所については、区役所だけでなく小学校にも依頼し、保護者だけの意向に左右されず、希望する小学生が学校で参加できるようにと考えております。受講の仕方については、多くのご指摘のとおり保護者と一緒に受講してもらうことも検討していきます。事業名称については、アンガーマネジメントではなく、「友達とうまくつながる方法」など、子どもたち自らが参加したくなるものにできればと考えております。具体的な内容については今後議論を重ね、効果的な手法を追求してまいります。

○事務局（増川企画係長） 続きまして、企画総務課より3つめの想定事業案、地域SNSにおけるつながり醸成事業についてご説明いたします。まず、周知方法について、紙媒体での周知が必要とのご指摘をいただきました。これにつきましては、地域SNS、ピアッザに子育て支援施設のマップが完成しましたら、区内全世帯にお届けする広報誌一面でのお知らせに加えまして、PRチラシの配布や、鉄道駅などへのポスター掲示により周知に努めてまいります。また、他のアプリとの住み分けなどが分かるよう、利用者目線に立った周知が必要とのご指摘をいただきました。こちらにつきましては、ホームページ上で堺子育て応援アプリやピアッザなど子育て支援情報の発信媒体ごとの特徴やそれぞれで取得できる情報などを整理し紹介してまいります。さらに、相談しにくい人のために、相談事例の例示が必要とのご指摘をいただきました。これにつきましては、利用者に相談してもらいやすくなるよう相談窓口ごとの相談概要を紹介すると共に、子育ての悩みを誰かに話すことでほっとしたり、子育ての見方が変わったりすることがあるということですか、一人で抱え込まずささいなことでも相談してほしいということなどを示し、相談を勧奨しようと考えております。

以上で前回会議の振り返りについての説明を終わります。

○加我座長 ありがとうございます。構成員の皆様からご意見などありますでしょうか。

《意見等なし》

今後、事業の実施状況や進捗状況など、機会を捉えてご報告いただければと思います。

それでは、案件2に進みます。今回会議のテーマは現役世代の防災意識を高める啓発施策です。まず資料1、意見聴取テーマ設定の趣旨について、事務局からご説明いただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

○事務局（増川企画係長） それでは、資料1についてご説明いたします。事務局で構成員の皆様よりご意見をいただきたい内容について検討しまして、今回と次回のテーマを現役世代の防災意識を高める啓発施策についてと設定させていただきました。

まず、1. 現状と課題についてです。（1）現状の認識ですが、北区の特性として、現役世代である生産年齢人口の居住者割合が7区で最も高いことが挙げられます。次に、平成28年度版防災白書の年齢階層別の意識調査によりますと、災害への備えについて年代が上がるほど取り組み、若年層ほど取り組んでいない傾向があることを確認いたしました。北区でも同様の傾向があると推測しております。また、北区では平成30年に大型台風が来た際の大規模停電や断水が記憶に新しいところですが、近い将来も南海トラフ巨大地震が高確率で発生することが危惧されており、災害被害を最小限に抑えるため、区民一人一人の防災力を高めることが求められている現状があります。

次の（2）は、北区における防災の取組についてです。これまでも北区では政策会議の前身であります区民評議会からのご提言を受け、自治会などの自主防災活動への支援や北区の集合住宅が多いという特性に応じたマンション居住者向け防災講座、また、親子で参加できる防災講座など、様々な取組を行ってまいりました。一方、地域の各校区の自治会では防災の重要な柱となる共助を支えるコミュニティーづくりにご尽力いただいております。また、自主防災組織では工夫を凝らした防災訓練が開催されるなど、地域の皆様のお力により北区における防災の取組が展開されているところです。ただ、これらの取組に参加する方々は、もともと防災への関心が高い層であることが多く、いかに現役世代の中で無関心な層に意識を向けてもらうかが恒常的な課題となっております。災害に強い街の実現には、区民一人一人の自助力を向上させることが必要であり、また、地域における訓練をはじめ、防災の取組への新たな現役世代の参加者を増やしていくことが大切です。そのために一人でも多くの方に防災に意識を向けてもらい、行動に移してもらえるような防災意識向上の啓発が不可欠と考えております。そこで、北区に多く居住する現役世代をターゲットとして防災に対する意識がそもそも低い層には少しでも関心を持ってもらい、一方、関心はあっても行動へと移せていない方々に向けては、防災講座や訓練などに参加するきっかけとなるような新たな啓発施策を実施したいと考えております。

最後に、会議の進め方についてのご説明になります。まず、今回は新たな啓発施策の検討に当たり、現役世代の関心を高めるポイントや効果的な手法について構成員の皆様からご意見をいただきたいと考えております。そして、次回は、今回いただくご意見を踏まえまして、事務局で検討してお示しする新たな防災啓発施策案に対しての構成員の皆様より評価、ご意

見をいただき、事業案のブラッシュアップにつなげてまいりたいと考えております。

○加我座長 ありがとうございます。今回と次回で防災について、特に現役世代の防災意識を高めるということについて議論をするということです。資料1では、課題認識についてご説明いただきました。この後、資料2、3と進んでいき、検討のポイントや新たな展開手法について議論しようということでございます。一旦、課題認識のところで皆様からのご質問、ご意見があればいただきたいと思います。いかがでしょうか。

○八木構成員 八木でございます。私は日本防災士会の大阪支部堺ブロックで役員をしております。その中で、思いついたことなのですが、日本防災士会では地区防災計画というものを推進しています。通常、防災計画というものは、自治体単位で策定します。しかし、同じ自治体内でも地域によって課題は様々です。海沿いの地域か山沿いの地域かなど、地域によって課題は様々ですので、もっと狭い範囲で策定する地区防災計画を推進しています。

そして、若い世代が防災への関心が低いということですが、この対策として、私の意見としましては、ぜひ足元から取り組んでいただきたいと思います。具体的には、まず家族で防災計画をつくる、名前をつけるとすれば「ファミリー防災計画」でしょうか。名前は何でもいいのですが、そのような取組をしていただきたいと思います。まずは家族で話し合っ、災害のときに集合場所をどこにするか、備蓄品をどうするか、家の中でどこが弱いか、そういったことを話し合っ、各家族のファミリー防災計画をつくってもらった方がいいと思います。転勤で来られた方など、地域に馴染みがない方は、いきなり地域の防災活動に参加するのもハードルが高いと思いますので、まずは家族で話し合うことを行政から何らかの形で啓発するか、もしくは、ファミリー防災計画を公募し、優れたものを広報紙やホームページに掲載することで啓発していく。あるいは、専門家とご意見を交えて計画を策定するなど、ぜひそういった形で、足元から防災計画を策定し、関心を持っていただく中で、さらに進んで勉強していただくために講座に参加していただくとか、地域の活動にも参加していただくとか、そういった方法をとっていただければと思います。

○加我座長 ありがとうございます。新たな展開手法のところでも、地域や家族といった視点から防災についての議論をするということも重要になってくるかと思えます。

ほかに、まずは課題認識に関することなどでご意見ありますでしょうか。

○清水構成員 そもそも、災害は色々なところで起きると思いますが、今回は、自宅や生活範囲内で災害が起きた時のことを想定すればよろしいでしょうか。現役世代ということなので職場や出張先にいることなども想定できますが、それを含めると、話が大きくなってしまいますので、ひとまず、自宅等で災害が起こった時のことを想定する形でよろしいですか。

○加我座長 ありがとうございます。どのような災害を想定していますかということについて、事務局のほうでお考えがあればお話いただけますか。

○事務局（増川企画係長） ご指摘ありがとうございます。勤務先や出張先の話を含めてしま

うと話が広がりすぎてしまいますので、自宅付近で被災という想定で進めさせていただければと思っています。

○加我座長 ありがとうございます。そこをベースにしながらとはいっても、家族が働きに出ていることもあろうかと思しますので、先ほどもございましたけども、それぞれの地区で家族がばらばらになってしまったとき、まずどのようなことをしなければならぬかといったことまで議論を発展していければと思います。

○魚谷構成員 確かに、基本はやはり家族単位になると思いますので、先ほどお話がありました地域の防災については家族を中心に計画を立てていただく。あと、職場では防災計画を策定している例が多いと思いますし、学校も、その他の様々な施設もそうだと思います。あとは、その連携を行政でどのようにするかということだけで。先ほどおっしゃられたように、やはり地域の中での家族の防災というものは非常に大事だと思います。

それから、もう1つ。現役世代の関心が低いということについて、大事なこととして、阪神淡路大震災から28年、東日本大震災から12年たちました。ということは、世代によれば大震災を全く見聞きしていない、テレビでも見ていない、そういった世代も増えているのではないかと思います。このような中、大切なのは、震災そのものを風化させないということです。風化させないための啓発施策も1つ考えていただければと思います。

○加我座長 ありがとうございます。具体的な施策の話にもなってきましたので、一旦全ての資料について事務局から説明してもらいたいと思います。その後、構成員の皆様と色々議論して行きたいと思います。まずは、事務局のほうでご説明よろしくをお願いします。

○事務局（阪本） それでは、資料2の説明をいたします。資料2では、現役世代に効果的な防災啓発施策を検討する際に意識すべきポイントについて、構成員の皆様からご意見をいただきたいと考えております。ご意見をいただくにあたり、現役世代の関心が低く、取組への参加が少ない原因と、それを解消させるポイントについて事務局で整理をいたしました。

まず、1. 現役世代の関心が低く、取組への参加が少ない主な原因についてですが、資料に囲みでお示ししております、内閣府による防災に関する世論調査、民間企業によるインターネットアンケート調査のデータを参考に考察いたしました。無関心、不参加の主な原因として、（1）日々の生活が忙しく、防災に意識を向ける時間や余裕がない。（2）興味があっても何から始めればよいかわからない。（3）区や地域で防災の取組が行われていることをそもそも知らない。（4）災害を自分事としてとらえられていない。以上4点があると考えました。なお、参考データの基となった統計資料については、参考資料6、統計資料抜粋をご参照ください。

次に、2. 効果的な啓発施策を検討する際のポイントですが、1の4点の原因についてそれぞれ解消するポイントを考えました。原因1を踏まえては、日々の日常生活の中で、ふと防災に思いを馳せることができるようにすることがポイントと考えました。次に、原因1、

2を踏まえては、防災に特別感を持たれないよう、参加者の参加のハードルを下げるのが最初の一步を踏み出すポイントと考えました。また、2、3、4を踏まえては、防災情報が目に触れる機会をできる限り増やすことが大事であると考えました。以上が事務局として考える原因と、それを解消するポイントです。これらに基づいて新たな啓発施策を検討していきたいと考えております。

以上の説明を踏まえまして、3. 意見聴取内容にあります2点について構成員の皆様よりご意見いただきたく存じます。1つめは、上記以外に現役世代の関心が低く、取組に参加が少ない原因について考えられるものはどのようなものがあるのでしょうか。2つめは、効果的な啓発施策を検討する際のポイントや留意すべき事項について他にどのようなものがあるのでしょうか。構成員の皆様のご意見をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

○加我座長 資料3の説明も引き続きお願いします。

○事務局（増川企画係長） 続きまして、資料3をご覧ください。こちらでは、防災啓発施策を効率的に展開していく際に、ターゲットをいかに設定すべきか。活用できる資源、連携すべき主体は何かなどについてご意見をいただきたいと思いますと考えております。

まず、1. 新たな展開手法を検討する際に留意する事項において、事務局として検討した内容をご説明させていただきます。はじめに、(1) ターゲットを絞った情報発信ですが、まず、受け手に自分事と感じてもらえるようにできる限りターゲットに合わせた啓発が必要と考えております。身近な事例としまして、令和4年度からの北区の新たな取組「おやことうぼうさい」を挙げさせていただいております。ゼロ歳児の保護者向けや小学生向けといった対象を明確にして開催される同講座ですが、参加者の満足度、習得度が高いと聞いております。「おやことうぼうさい」開催の様子については、お手元の配布資料「おやことうぼうさい」参考資料4、開催レポートをご参照ください。

次に、ターゲットの興味を引く訴求も大切と考えております。事例を調べる中で面白い漫画がありましたので、ご紹介させていただきます。「彼女を守る51の方法」というタイトルの漫画でして、首都直下型地震に被災した若い男女が崩壊した都市の中で自宅をめざして歩いて帰る道中で、現実起こりうるトラブルと向き合うストーリーとなっております。防災への関心が低い若者に響きやすい漫画という媒体、タイトルのキャッチコピー、ストーリーであると感じました。この例のように、若者が興味を持って自分事として捉えられるような見せ方や切り口などを意識したいと考えているところです。次に、多様な広報媒体や地域資源の活用を考えております。デジタル、リアル両面において人が集まる場所で啓発する必要があり、例えば、北区が情報を展開していますSNSですとか、主要駅のデジタルサイネージ、北区の魅力の1つである大型緑地公園などの活用により効果的な啓発ができるのではないかと考えております。

最後に、様々な主体との連携ということで、北区で活動するボランティア団体との共同や

企業との連携による啓発も重要と考えております。例えば、区民活動支援コーナーに登録されている活動団体やイオンモールなどの商業施設と一緒にできることを模索していきたいと思っております。

以上、事務局としての考えをお示しさせていただきました。これらを踏まえて、3. 意見聴取内容にあります2点について構成員の皆様よりご意見をいただきたく存じます。

1点め、ターゲットの絞り方や活用できる地域資源、連携主体など、他に考えられるものはどのようなものがあるでしょうか。2点め、その他防災啓発施策を効率的に展開する際のポイントや留意すべき事項はどのようなものがあるでしょうか。構成員の皆様のお立場やご経験から自由な視点でご意見をいただきたく存じます。よろしく願いいたします。

○加我座長 ありがとうございます。今回と次回にかけて、防災意識を高めていく必要性についての議論と、そのためにこんな防災啓発施策をやってみたらどうですかというようなことの意見交換をしたいと思えます。羽根さんどうぞ。

○羽根構成員 若い世代の関心が低いということですが、今、若い世代の人たちはテレビを見る機会が少ないと思います。逆に高齢者の方々はテレビの電源がつきっぱなしという家も多いかと思うのですが、今、若い世代はSNSやインターネットばかりで、自分にとって興味のある情報しか取り入れないようになってきていると思います。そういった中で、どのように防災に対して興味を持たせていくかということは、なかなか難しいことです。

それと、堺市に限らず日本は災害大国と言われているのに、教育の場で防災を学ぶ時間が少ないということが、問題と思っています。最近、テレビで東北の情報が流れていたのですが、東北でも、もう大震災の経験がない子が増えてきていて、災害に対する意識がなくなっているのです。学校教育で防災を取り上げるようにしていました。これから堺市でも大震災が起きる可能性が高いのに、なぜ学校教育で取り上げないのか。子どもたちが幼い頃から防災について関心を持てば、家庭でも話題に挙がってきますし、参観日などに親子で参加する防災講座みたいなのを企画すれば、親子で話し合うきっかけにもなると思います。何もないところから家族で防災について語りましょうと言っても、誰がそういった話を持っていくのかなというところが疑問でもあるので、そういったことが一番重要なのかなと思います。

私は集合住宅に住んでいて、防災の取組を一生懸命やっているのですけれども、私の住む集合住宅は700世帯2,000名近くの住民がいますが、毎年訓練に参加するのは約150世帯、約200名です。一昨年から住人に対して「無事ですステッカー」というものを玄関のドアに貼り付けてくださいということをお願いしており、訓練に参加しない方でもそれを貼ってないとインターホンを鳴らしますよという安否確認を半強制的にすることを始めました。自治会役員、管理組合役員が2年ごとに約40名交代になっていくのですが、その方たちは半強制で訓練に参加して、住んでいる間に2回ぐらいは訓練に強制的に参加させられるみたいな形をとっています。そうでもしないと、忙しい中なかなか興味もない防災の取組

にたどり着くという人は少ないかなと思います。

○加我座長 ありがとうございます。天野構成員どうぞ。

○天野構成員 少し前段の話になるのですが、現在、北区の自治連合会が実施している施策を紹介させていただきます。まず、今現在、避難所として認定されているのは、あくまでも学校の体育館なのです。我々が管理する地域会館について堺市危機管理課は避難所として認定していません。このような形ですと、まず、大きな災害が起きたときには、学校の体育館だけでは収容できません。したがって、地域会館も含めて防災拠点にしていきたいということを考えておりました、垂井区長とこのことについて何回も話をしました。結果、今、1つ前進したのは、地域会館については、北区だけですけれども、区長の判断で我々自治連合会と一緒にあって、地域会館は準避難所として認定しましょうということになったのです。

ただ、認定していただいても、やはりそこに避難をしてきた人は、例えば、食料であるとか水であるとか毛布であるとか、いろんな物が必要ですよ。そういう物もやはり備蓄しておかなければということで、これもあえて北区の自主防災会が費用を支出して、倉庫を造りました。現在その倉庫にはまだまだ十分ではありませんが備蓄品を徐々に貯めていっています。そういうことで、まず1点、北区は他の区に比べて一歩前進をしているのではないかと思います。それから、もう1つ。色々な意見があるのですが、先ほどから家庭についての話がありました。先般、テレビを見ていますと、このような情報が入ってきました。例えば、家族が3人いる。お父さん、お母さん、子ども。それで、お父さんは働いています。お母さんもパートに行っています。子どもは学校に行っています。日中は各々がばらばらですよ。万が一、災害を受けたときに、どこに逃げたらいいのか、お互いに分からないということで、場所を決めている。最終的にはこの場所に皆で集まろうということを決めて、その場所に3人共が結果として集まってくることで、家族がまた一堂になって助け合いができると、このような内容のテレビ番組が放映されていました。私は非常にいいことだなと思っています。

今、我々は起きた災害に対して、どうしたらいいのかわからず右往左往することが多いと思います。これではやはりうまくいきません。ですから、そのような家族の決まりごとを作っておくということは大切なことだと思います。

それから、もう1つ。先ほど申し上げたように、家庭を中心としてそういったことをまずはやっていただきたいなど、私も思っています。ただ、家庭だけでは駄目ですよ。当然、企業の中でもそれに準じたものを考えていかなければならないだろうということで、個人が発信してもなかなか企業は動いてくれませんので、やはり役所としてそういったことを啓蒙していく手段が必要ではないかと、役所としてこういうようにしてほしいのだということが必要ではないかと思っています。これは当然、企業だけではなく、学校、その他も必要です。

それから、先ほど資料2の中の参考データの1番に出ていましたが、「時間がなかったから参加をしない」ということは言い訳だと思うのです。全く危機感を感じていないです。危

機感を感じていたら、時間があってもなくても災害が起きた際にどうするのかということを考えますよね。こんなことは言えるはずがないのです。でも、こういったことが防災訓練に参加見学したことがない理由の1番で入っています。これはおかしいのではないのでしょうか。やはり、これについては日頃の啓蒙が必要だと思います。当然我々、自治連合会も啓蒙していきますけれども、やはりこれも最終的には行政がある程度そういったものをつくって行って、みんなに分かるような仕組みをつくっていく必要があると思うのです。時間がないからではなくて、時間はなくても緊急の際にはこのようにしなければならないのだと、これは当然のことですよ。それをぜひともやっていただきたいなと思います。

それから、会場に行くのが大変だったからと、このようなことを言っている人も論外です。自分の命が大切なら、このようなことを言っている場合ではないわけです。このようなことがデータとして出てくること自体が、どうも私には合点がいきません。そういう意味でもっともっとPRについて行政が力を入れてほしいということと、当然我々、地域の自治連合会も一緒になってやっていきたいなと思います。

○加我座長 はい、ありがとうございます。はい、どうぞ、坊農さん。

○坊農構成員 いろいろと貴重な意見が出て、感心をしています。天野会長がおっしゃったように、地域ぐるみで防災をしていくことが、非常に大切だと思います。初めの資料にも書いていましたが、本当に防災意識が低いというのですかね。日々の生活が忙しいから、こんなこと考えられないとかいうのは、やはり他人事としか考えていないように感じられます。それではいけない。自分事のように考えていかないといけません、そこをどう変えていくかというのが、難しいところですが。例えば、南海トラフについて、最近テレビでNHKスペシャルがやっていました。よくハザードマップを見れば、確かに堺市でも海側で南海トラフ大地震による津波の影響を受けますが、北区は津波による被害は受けないことになっています。それを見たら、もう大丈夫だろうと思ってしまいます。防災って本当に何が想定外って、東日本大震災の経験からも、何が起こるか分かりませんので、他人事、自分のところは関係ないといったことがないように、例えば、南海トラフが起こったときでも津波が来るのは、海側なのでという意識があるので、いや、そうではなくて、その意識を他人事から自分事に変えなければいけない。例えば、一般的に防災講座をよくやるとは思います、家庭で地震が起こったときに、タンスなどが落ちてこないように止めなければというのは、当然ですが、それプラスアルファですね、北区だったらこういう被害が想定されるといった地域に合わせた啓発やPRが必要だと思います。SNS、若い世代は本当にテレビを見ていないというのはよく分かります。私の知り合いの若い方でも、最近テレビを見ていない、YouTubeばかり見ていると言っておられます。YouTubeに、動画をアップすること自体は無料でできるので、北区に沿った内容で、北区の皆さんが知っている有名な方を使ったコンテンツなどで、北区ではどういうふうにして災害を回避していかなければ、防災対策していかなければ

ればいけないよみたいなことをYouTube、SNSに上げて、みんなで我が事のように見てもらうようなことが必要と思いました。

○加我座長 ありがとうございます。はい、吉村さん。

○吉村構成員 よろしくお願ひします。NHKスペシャル、私も二日間見ました。本当にテーマがすごく大きくて、先ほど、どこに絞ってということでしたが、八木構成員さんがおっしゃったように、やはり家族というところがスタートだと思っています。ただ、核家族化の中で、昔と違うところがたくさんあって、いつ起こるか分からないというところも含めて、本当にいろんな視点が必要になってくるということ、皆様のお話をお聞きして思いました。

また、ご説明があるかもしれませんが、家族でということであれば、この作っていただいた防災ブックをまず活用することが一番と思っています。例えば、どこで集まるということがなぜ必要かということも子ども向けに分かりやすく書いていただいています。これは令和4年度に発行していただいたのですよね。

○光武特別構成員 はい。

○吉村構成員 はい。完成するまでにおそらくたくさんの時間を費やしていただいて、色々な方の意見をお聞きして、こうやって具体的に出来上がっている。

少し話が変わるのですが、コロナ禍の中で、すごいなって思ったのは、私はこども園で従事していますが、2歳の子どもでも登園したら、誰も何も言わないのに、手指消毒をして入ってくるのですね。もう習慣はすごいなって。そういったことの繰り返しで子どもたちは育つのだと思うのですね。ですから、学校教育も我々のこども園も、やはり小さいときからの意識と学びが本当に大切だと感じていますので、せっかく北区版で作っていただいたわけですから、北区の15ある小学校で、これを活用して具体的に何か実践していただいて、できたらこれを授業参観で発表するような企画をしてもらえたらありがたいと思います。これができた時、私たちも早速いただきましたけど、中身が本当に、よくいろんな視点で考えていただいていて、それも具体的に書かれていてとても素敵だなと感じました。こういったものをぜひ学校で活用してほしい。結果どうだったかということも検証して教えてほしい。せっかく令和4年度に作成していただいたので、すぐに取り組んでもらいたいと思いました。

あと、もう少しすいません。よく自助・公助・共助と言われますが、具体的に自助は何からすればいいのかっていうところも、大まかなことは分かりますけど、具体的にもあちらこちらでは目にするのですけどね。北区として自分でこれだけは用意してくださいというところとか、そういったことは先ほど出ていたように、家庭だけでも駄目だし、学校や職場や地域など関わりのある接点で、北区独自で、準備だけでも、心構えとしてはこういうふうにしていきましょうといった最低ここはぜひともお願いしたいところを作って伝えていくことが必要と考えています。中でも学校でやるのが一番良いのではないかと思います。子どもを持つご家族が、やはり、興味関心を持つのは、子どもの育ちですので、子ども命を守

るっていうところで言うと、効果的という言葉が適切か分かりませんが、非常に効果があるのではないかと思います。効果的な取組というのはなかなか難しいので、継続することが大切だと思います。繰り返し継続をして、検証しながら進めていくことが必要と考えます。

○加我座長 ありがとうございます。この子育てファミリーのための防災ブックはすごく素敵な冊子だと思いますが、これを作られたときの苦労話とかも含め、光武さんいかがですか。

○吉村構成員 私もすごく素敵な冊子だと思います。

○光武特別構成員 ありがとうございます。

○吉村構成員 ですから、先ほどおっしゃっていただいたこと、この冊子の8ページなんかに家族の約束って載っているの。でも、これ、大人がしましよって言ったら、なかなか。

○光武特別構成員 はい。

○吉村構成員 でも、子どもからすると、非常にいいのではないかなと思います。

○魚谷構成員 これはどの程度の部数を作っておられるのですか。結構たくさんあるでしょう。

○光武特別構成員 部数ですか。かなりたくさん作っていただいております。

○魚谷構成員 ああ、そうですか、それはいいですね。

○光武特別構成員 ありがとうございます。

○吉村構成員 学校とかにも配布できていますか。

○光武特別構成員 小学校に関しては、直接配布はできていないのですが、地域の子育てサークルや保育園、幼稚園の保護者さん方やこのような発表の場でご興味いただいた方にお持ち帰りいただいて、あとは北区役所の市政情報コーナーに配架していただいているのですが、多くの方にお持ち帰りいただいていて補充を頻繁にしていると聞いています。

これを実際に見たとある小学生からのお話なのですが、夏休みの自由研究に、この防災ブックを使って発表をしたということを12月イオンモール堺北花田で開催された子育てフェスタの場で聞きました。あとは、堺区にて防災講座をさせていただいたのですが、参加したお母さんたちと話していると、「こんな素敵なものがあるのは知らなかった」と嬉しいお言葉をいただきました。その後、偶然その方がSNSのインフルエンサーでして、拡散していただいたりもしました。そのような形でたくさんの方々の目に触れるようにしていただいている状態です。

○加我座長 ありがとうございます。他にお気付きの点などございませんでしょうか。

○清水構成員 1つ教えていただきたいです。私もハザードマップがどうなっているのかについて気になっていましたが、先ほどこちらの地域は津波などの被害は少ないということですが、川の氾濫なども大丈夫ということですかね。水害が起こったら高いところに逃げないといけないということがありますが、それは想定しなくてもいいということですよ。一般的な避難所にどう避難するかっていうところを議論しておけばいいのかについて確かめたかったです。

その他、少し話が変わりますが、先ほどからターゲットの話がいろいろ出ていますが現役世代ということなので、シニアは置いておいてよいということですね。それで、現役世代を分けると、小学校、中学校、幼稚園もありますが、幼稚園、小学校、中学校、高校の生徒という括りが1つ。それから、大学生という括りが1つですね。それから、あとは職場というものがあると思います。この人たちは所属するどこかの組織があるので、そこでの連携が必要になってくると思います。それで、一番組織に属していないのが、本日ターゲットになっている主婦層やどこにも所属していない子どもたち。常にどこかに所属していない人たちというのを、やっぱり一番中心に考えないといけないのかなと思うので、まさしくこのブックですね。これはそういうターゲットに書かれたものということで、本当にこれは貴重で分かりやすく良いと思いました。防災ってなかなか難しいのですが、刷り込みがやはり必要のかなと思います。繰り返し刷り込んでいって、当たり前、ああ、いつか来るのだということを考えていく。それには、常々色々な情報の発信の仕方、内容も変えながらターゲットごとにやっていくことが必要だと思います。考え方として、頭に知識を入れる。そして、その知識をどうやって行動で身につけさせるかということで、刷り込みができると思うので、まずどういう知識を与えるかということと、それをどういう形で刷り込ませるかということを考える必要があると思います。

情報発信に関して北区は公式SNSとしてインスタグラムがありますよね。私はフォローさせていただいていますが、毎週4回ぐらい投稿されているのかな。かなり更新されていて、すごく写真も綺麗ですし、新しい情報が結構あつたりします。一般的な情報以外にも、個別のお店の情報なども入っていて、すごくよくできているなと思っています。

今ちょっとフォロワーが何人いるか分からないのですが、そういったところで1週間防災ウィークみたいなものを設けてみて、1週間あまりシビアな感じじゃなくて、楽しい感じでこういったところにこんなものがあるよとか、こういったものが発行されていますよとか、どこで手に入りますよとか、そういった取組なんかもして見て、反応を見てみるっていうのも1つかなと思いました。

○加我座長 ありがとうございます。はい、どうぞ。

○坊農構成員 すいません。先ほどのハザードマップの話の補足ですが、津波は、あくまでも、南海トラフの時なので、風水害のハザードマップはまた別でありまして。確か北区でしたら大和川の辺りは被害が出る想定をされております。

なので、防災を考える際に、地震のときの対応と風水害、最近日本でも多くあります台風被害などもありますので、分けて考えられたほうが良いと思います。

○加我座長 ありがとうございます。先ほどのお話では、子育てファミリーのための防災ブック9ページの指定緊急避難場所の一覧に加えて、地域会館が準避難所となるような取組もあるとのことでした。また、洪水に対してということと、土砂災害に対してということと、地

震に対してということと、大規模火事に対してということで、それぞれ災害の性質が違うので、その性質に合わせた避難行動をとるべきであることは重要な視点です。

北区は、南海トラフについては、三国ヶ丘駅から以東は高くなりますので、一応津波の想定はされていません。そして、洪水については、大和川と西除川の合流地点で、西除川の方に反対に水が入ってきます。これは、私が子どもの頃に一度大きな越流があったかと思いません。そして、土砂災害については、南区ではニュータウン開発等で高盛土をしているところが揺れるかもしれないと言われていますが、北区は幸い高盛土をしていませんので、土砂災害は少ないです。あとは、大規模火事については、木造家屋が密集しているところは北区の中ではあまりないですが、やはり昔ながらの木造家屋を中心とした良い雰囲気のところもあります。一方で、新金岡の団地やマンションは耐火建築物なので、火災延焼といった視点でも、地区ごとに性格や様子が違うということになるかと思えます。しかし、大規模停電や断水は地震でも発生しますし、前回の平成30年あたりの台風21号のときに、マンションでも停電や断水が発生しましたので、それぞれ皆が備えておかないといけないということになるかと思えます。

他にありませんでしょうか。はい、どうぞ。

○竹内構成員 大阪府立大学の竹内です。まず、ターゲットについて、皆さんから子育て世代に関する意見が多く出ていますが、若い世代はあまり防災に関心がないと聞いて私がイメージしたのは、一人暮らしの20代や30代です。パンフレットなどもそうですが、防災の講座は小さな子どもがいる家庭向けに活発に活動がなされていると思います。一人暮らしの方などは、家族のことを考える機会がなく、自分だけであるという思いから関心を持ってない側面があると思ったので、そのような方々に特化した啓発施策があればよいと思いました。

また、車を移動させておくことやSNSのトップ画像を変更するといった防災ブック5ページにあるおうなプチ情報を小出しにする形で、インスタグラムなどのSNSで投稿することで、興味を持ってもらえるかと思いました。

他には、防災グッズに関して、懐中電灯などを用意しておいたほうが良いということを知りますが、以前防災に関するお話を聞いたときに、両手が空いたほうが移動するときや作業するときにも便利なので、懐中電灯よりヘッドライトのほうが実際は役に立ったと聞きました。防災用に持っておくと役に立つものの情報や、改めて考えさせられるような内容についてSNSでの投稿もあれば良いと思いました。

○加我座長 ありがとうございます。はい、どうぞ。

○天野構成員 皆さんの意見の多くは、健康な方のことをおっしゃっていると思います。しかし、現実には寝たきりの方もいらっしゃいます。特に今の議論ではお年寄りのことが出てきていません。今、堺市では要支援者の名簿が作られ、我々自治会へ送られてきます。しかし、要支援の方たちをどうするのかという話がありません。当然ながら、自分がまず逃げなけれ

ばならない状況において、人を助ける時間や余裕はないということになると思っています。要支援者の名簿はあるが、具体策が全くない状況では、前へ進めないと思いますので、行政には要支援の方への対応の具体策を明示いただきたく思います。

現在、我々が取り組んでいることを申し上げますと、町会長に要支援者の名簿を渡して、町会長から班長に渡しています。班長はその名簿の中で2名程度を管理することになっています。まだ実際に避難を支援しなければいけない災害が起きたことがありませんが、そういうことも1つの対策だと思います。

また、先ほどの八木さんのお話に絡めまして、我々の金岡南校区は黄色いリボンを作っています。それを先ほどお伝えした要支援の方の家の入り口に結びつけます。そのリボンがついているところは無事であることが分かるという1つの目安です。リボンがついていないところは助ける必要がありますが、先ほど申し上げたように、誰がどう助けるのかということになると、話がなかなか前に進みません。北区は若い人が多く、お年寄りの構成比はおそらく20数パーセントだと思います。子どもや大人だけではなく、そういう方も含めて考えるべきであると思います。

○加我座長 ありがとうございます。続いて、いかがですか。

○金戸構成員 皆様のお話を聞いて、防災は日頃からの取組が大切だと感じました。自身の経験として10年ほど前に結婚して北区に転入してきた時に、防災マップやハザードマップをいただき、夫婦で話し合いをしました。その時は自分が住む地域がどの校区かを知らなくて、地図上で一番近いところに逃げようと話し合い、避難場所を決めていました。しかし、いざ子どもが生まれて成長したとき、逃げようと言っていた学校は違う校区であることが分かりました。たびたび話し合うことで避難場所を変えなければいけないことに気付きました。転入したときに校区を区から教えてもらったかは分かりませんが、避難場所に関しては、すぐ分からなかった記憶があります。

また、子どもが学校に通い出すと、昼間の大半は学校で過ごすので、学校で防災教育をすると、子どもはより身近に感じるし、友達や親とも話せます。親と話した段階で、おじいちゃんやおばあちゃんへの連絡はどうしようかという話もできます。ご近所や友達とのつながりで、防災に関する話をすることによって、防災が特別ではなく身近なものになると先ほどお聞きしました。防災が身近なものなることによって、みんなで話し合い、共有していく機会が増えて、より一層良いと思います。

全体的に防災への関心が少ない、薄いということでしたら、今回は「おやこt o ぼうさい」で親子がクローズアップされていたので、親子から始めて他の世帯へ広げていけたら良いと思いました。

○加我座長 ありがとうございます。長尾さんいかがですか。

○長尾構成員 この防災ブックはとても素敵で、私も知らなかったの、色々な人に知っても

raitaito omoi mashi ta. 例え ば、防 災ブ ック を、学 校の授 業や参 観な どで取 り扱 っ て も らい
たい と思 い まし た。私 は子 ども が 2人 い ます が、毎 年 9月 9日 を救 急の 日と 勝手 に決 めて、
自 分 の家 の防 災グ ッズ を子 ども と一 緒に 確 認し て、中 の衣 類を 子 ども の成 長に あわ せ て 変 更
し た り、非 常食 を 確 認し た り、保 存期 限が 近 く切 れる もの を食 べ た りし てい ます。ま た、例
え ば誰 が家 の猫 を連 れて いく かな ど、非 常時 の担 当や 集 合場 所も 子 ども と話 し合 っ てい ます。
他 にも、昔 は電 話番 号を 記 憶し てい まし たが、今 は携 帯電 話に 頼 っ て番 号を 覚 えてい ない の
で、両 親の 電 話番 号な どを メモ に書 いて 入 れる よう にし まし た。

ま た、私 自 身 が子 ども 食 堂を し てい るの で、防 災ブ ック をも とに 皆で お話 しす る機 会を 持
ち たい と思 い まし た。ま た、昨 年社 会福 祉協 議会 から 水を 入 れると 出 来上 がる 非 常食 を頂 い
て、子 ども 食 堂で 調 理し たの ですが、今 年 も機 会が あ れば 皆で 非 常食 を食 べる 機 会を 持 ち たい
と思 い まし た。

○加 我座 長 あり がと うご ざい ます。他 に追 加で あ りま すで しょ うか。

○光 武特 別構 成員 先 ほ ど子 ども 食 堂で 非 常食 を実 際食 べ てみ たと いう お話 があ りま し たが、
私 も昨 年、子 育 て支 援課 と自 治推 進課 と一 緒に、大 泉緑 地へ 行 っ て親 子で 一 緒に 防 災食 を食
べ るピ ッニ ック をし まし たの で、経 緯と 実 施し た感 想を お伝 えさ せ てい た だき ます。

経 緯と して、備 えて いる 方 は多 くい ます が、実 際 に防 災食 を食 べ たこ とがな くて、味 や作
り 方 を知 らない 方 が多 いこ とに 着 眼し て企 画し まし た。お 水で カ ップ ラーメン を作 れる こ
と を知 らない お母 さん は非 常 に多 いで す。他 にも 回 して 使 用す る発 電器 具な ど備 えてい て も使
い 方 を知 らない 機 材が あ っ た り、簡 易ブ ラン ケッ トを 実 際開 け たこ とがな く暖 かい かど うか
も 知 らな かつ た りす る方 が多 いこ とを 受 けて、実 践に 至 りま し た。

食 べ たこ との ない もの を口 にす るこ とは 不 安で す。大 人でも そ うだ と思 い ます が、初 めて
のレ スト ランで 初 めて のも のを 食 べ てく ださ いと 言 われ て皆 さん 食 べ られ ます か。躊 躇す
る 部 分が あ ると 思 い ます が、お 子 様も 同 じ状 況で す。な ので、実 際にお 子 さん が食 べ てく れ た
こ とにお 母 さん も喜 んで 「こ れが おい し かつ たの で 1個 買 っ てみ ます」と 保 存食 を実 際 に購
入 し てい る様 子 が 見 られ まし た。

ま た、三 国丘 校 区 の防 災倉 庫の 完 成イ ベン トに 講 師と して 呼 ん でい た だき た時 き、中 を見
せ てい た だき まし た。も ちろ ん不 足し てい るも の、各 家 庭で 補 填し て も らう べ きも のも た く
さ んあ りま し たが、倉 庫内 の物 品 の使 い方 を知 っ てい るか 聞 くと、知 らない 方 がほ とん どで
し た。例 え ば、ガ スボ ンベ で発 電で きると も素 敵な 機 械が あ りま し たが、工 程が 多 いの で
実 際 にや っ てみ ない とで きな いで す。被 災す るとパ ニ ックに なり 落 ち着 いた 状 況で 行 動で き
ず、誰 もが 自 分 の命 を守 ろう と自 分 勝 手な 行 動に なり がち で す。そ の時 きに どうす るの か、
倉 庫を 設 置し た後 のフ ォロ ーは どうな るか が課 題だ と考 えま す。

ま た、堺 市水 道局 が行 っ てい る「す い ちや んのピ ックリ じゃ ぐち」と いう もの があ りま す。
堺 市 の小 学 校に 設 置さ れて いる 災 害時 用の 給 水栓 の名 称で す が、も しご 存 じで ない 方 が いら

っしやったら、防災ブック12ページの右下に、二次元コードが載っているので、お時間があるときに見ていただきたいと思います。私の子どもが小学生になったときに、先生に「どこにありますか。」と聞いたら、「それは何ですか。」と言われました。教師の方が知らないということは災害時に使えません。さらに、「すいちゃんのビックリじゃぐち」には南京錠が付いています。「その南京錠は誰が解錠することになっていますか」と聞くと、「知らないです。鍵はどこにありますか。」という返答がありました。保護者からすれば、聞かれても困ります。助けてくださいって言ったときに助けてもらえない状況になっています。そんな感じで誰もが知らない。ああ、誰か知っているからそれでいいだろうといったことになっているということが問題点だと思いました。

若い世代、子育て世代、身体に障害がある方、シニア世代、いろいろありますが、色々な着目点から見て考えたアイデアがいくつかありますので、お話しさせていただきます。まず、大学生、高校生など保護者の手から離れた若い世代ですが、実際に自分が大学生や働きだしたばかりの頃は、野外フェスやサークル活動を楽しんだり、車の免許を取ったりしていました。その時のことを思い返すと、教習所に通っていて車の運転方法を習いますが、車に乗っていて災害に遭ったらどうするかということは、習いませんでした。今になって防災ブックを作るときにアンダーパスに水がたまるとドアが開かなくなるので危険だから入らないでくださいということを知りました。その時、例えば、車の教習所で災害に遭ったらどうするかを教えていただいていたら、防災って何だろうと考えるきっかけになったなと思いました。あとは大学のサークルなどで避難所について確認したりなどきっかけづくりができる人、誰か一人でもいいので、母数を少しずつ増やしていくことが必要だと思いました。

子育て世帯については、この防災ブックを作って、少しずつ講座を通じて知っている方が一人でも多くなるように、また、知った方がママ友の会話の中で少しネタになるような形のお話しをするようにしています。講座に来られない方、接点がない方には、習い事などの場で、災害に起きたらどうするという話をするのも一つかと思いました。

身体に不自由な方に関しては、情報が町会から順々に下りてくるというふうに今お伺いしましたが、今、個人情報の保護についてたくさん言われている中で、知らない方ももちろんいらっしゃると思います。例えば、風水害、台風とか大雨のときは、事前に避難地、避難所に行ってもらえるのも一つではないかなと思います。助け合いましょうっていうのはもちろん分かります。

子育て世代でも、私は3人の子どもを引き連れてどこかに行くときは、手がどうしても足りないです。ただ、そのような状況下で助きたい気持ちはあるけれど、助けることができないという環境でもある人もいます。まず、自分自身が逃げられる状況、避難できるような状態であれば、身体に不自由な方とかシニアの方とかは、先に避難してもらうことが一番一人一人の命を守る確実な方法ではないのかなと思います。

最後になりますが、この講座をするときには、もちろんお母さん方にも伝えることですが防災グッズを備えるのではなく、自分のかばんの中にあるものでどうにか生き延びる方法を考えてくださいというふうにお伝えしています。例えば、おむつはおむつ以外の方法で使ってくださいとお話しします。お母さん方は子どもがこけたときに大きな出血をして、絆創膏では足らないのでおむつで止血しますというふうにお伝えします。また、おむつの吸水ポリマーを使って、その中に水を入れて、体が熱いときに首に付けると涼しく感じる冷えピタとして、お湯を掛けると保温性があるので、カイロとして使ってくださいというふうにお伝えします。子育て世代でなくても、大人、皆さんが多分それぞれの荷物の中で、被災したときにどのように逃げるか、どのように活用するかということをもとに考えていただきたいなと思います。助け合うのももちろんですが、自分の命を守ってこそその共助であるので、自助をまずは優先していただきたいです。以上です。

○加我座長 ありがとうございます。他に何かよろしいでしょうか。

はい。それでは、本日は現役世代の防災意識を高める、そのことについて関心が低く、取組の参加が少ない原因であるとか、それに対する取組というようなことということで、皆さんからたくさんご意見をいただきましたと思います。

私のほうから少しだけアイデアではないですが、お話をさせていただきます。本日は3月10日です。明日が3月11日で、2011年に今現在では3.11と言っています東日本大震災で日本は大きな被害を受けました。そういった大災害が発生すると、防災について、今自分が住んでいるところもいつ何が起こるか分からないというような形で、一瞬意識が高まるのですが、風化させてはならないという話もありましたが、関西でも1995年1月17日に阪神淡路大震災が起こっています。もしかしたら、今ここにお集まりの皆さんもご記憶に、実際に被災をされた方もいらっしゃるかと思います。そうしたことが1月17日、3月11日が来ると、新聞、テレビでとりあげられますが新聞も見ない、テレビも見ない、私自身もそういう生活になっていて、今欲しい情報をピンポイントで検索するっていうことはするのですが、こうした取組は効果的ということにはなかなかいかず、継続的に刷り込んでいくということが必要なのかなと思います。我が身に振り返ってみますと、現役世代、若い世代がなかなか防災意識や時間がないから防災訓練などに行かないと言われても、そうなのですね。若いときは自助で何とでもなると思っていますので、自身も1995年のあの日に何をしていたかということ、朝まで酒飲んでみたい状態ですし、その後、防災をということをやったかということ、自身は自身でというようなことが中心になり、なかなか防災ということに関心がないというのは、そうだと思います。子どもが小さいときですと、避難所が近所の小学校にあって、何かあったときには、お父さんもお母さんも働きに行っているの、とにかくそこに行くようになる。近所のよくお世話にしている当時の自治会長さんのところに行きなさいというようなことを言っていました。子どもが大き

なくなってくると、全くそういう話はしませんので、彼も自助できると思っていますし、私も自助できると思っていますし、妻も自助できるというような状況になっています。そんな中で、やはり、忘れてはいけないのが、いつ起こるか分からないということがこの防災で災害に対してということだと思いますので、改めて私もこの子育てファミリーのための防災ブックを家の中でひそかにリビングのテーブルの上に置いておこうかなと思っています。そんな中で、この会議に関わらせてもらって、あっ、いいなと思ったのが、北区区民評議会のとときに、羽根さんのマンションも寄せてもらいましたし、そのときに北八下中学校での防災訓練にも寄せてもらいました。そのときに、中学校での防災訓練はどんなことをしているのかというと、中学生の子どもたちが当然自分の身を守るということですが、むしろ、君たちは何かが起こったときに、この地域にいる子たち、高校生、大学生は外のほうに出ていますので、中学生の君たちが一番頼りになるのだと。段ボールでの簡易ベッドを作ることを一緒にやりましたが、君たちは災害が発生したときに、周りの人たちを助ける支援、救援のための働き手になるのだと、頑張ってくれよというようなことの防災訓練でした。もしかしたら、中学生や高校性や大学生っていうことでいきますと、どんなふうに備えていますかということよりも、大学生ボランティアが東日本大震災でも活躍しましたし、特に熊本大地震のときに活躍したというようなことを聞いています。今や災害が発生すると、若い人たちが非常に重要な働き手になってくるかと思っていますので、防災ということよりも、防災のとき活躍できる、そのために知識ノウハウを身につけませんかみたいなことでPRをしていくのもあるかもしれません。サークル活動が大変でというようなことが大学生で、私自身もそうでしたので、そうした方々が例えばショッピングモールに行ったときに、あっ、そういえば防災について何かやっているなというようなことで見かけてもらうということが大事だと思いますので、そういう面でいうと、あの手この手で露出を高めていくということが大事だと思います。今日挙げられた、ペーパーにさせていただいているものですか、今日いただいた意見なんかも踏まえて、刷り込みできるように。知らないうちに触れられ、取り組んでいただければなというふうに思います。

はい。では、ほかにご意見等なければ、本日のところはこの辺にしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

これで、本日の会議の次第は全て終了しました。それでは、この後の進行は事務局にお返しします。よろしくお願いいたします。

5 区長あいさつ

○事務局（阪本） 構成員の皆様、本日はありがとうございました。終わりに、区長の垂井より一言ご挨拶させていただきます。

○垂井区長 年度末のお忙しい中にお集まりいただきまして、ありがとうございます。本日は私ども区役所として一番大切な区民の皆様の安全、安心を守るということで、前身の区民評

議会の中でも議論してきました防災をテーマに、本当に様々な観点から貴重なご意見をいただいたと思っております。やはり先ほどもありましたとおり、他人事ではなく自分事としてしっかりと認識を持ってもらう、これが非常に重要であると思っておりますので、私ども区役所のほうでは、地域で防災活動を担っている皆様方のご支援をさせていただいたり、中学校で防災訓練をさせてもらったり、ジュニア防災リーダーの養成ということで小学校にも出向いて防災講座などを実施させていただいております。また、やはり北区はマンションが多いので、マンション防災にも力を入れて行っているのですが、まだまだ行き届かないところがたくさんあると思っております。本日いただきましたご意見を踏まえまして、こちらでまた一度考えさせていただいて、こういうことができないのかということをお隣の会議でご提案させていただきたいと思っております。今後ともどうかよろしくお願ひします。本日は本当にありがとうございました。

○加我座長 ありがとうございます。

6 閉会

○事務局（増川企画係長） 最後に1点ご報告があります。本会議の第1回テーマでありました、北区の魅力発掘、発信、創出について、形になった取組がありますのでご報告させていただきます。Instagramで区民の皆様から投稿いただきました、北区の魅力写真をつなぎ合わせた動画がこのたび完成しました。お手元にお配りしています広報紙掲載記事の右上QRコードからご覧になれるほか、現在大阪メトロなかもず駅デジタルサイネージでも3月いっぱい放映しているところです。お時間あるときにぜひご覧いただければ幸いです。

それでは、最後の事務連絡をさせていただきます。次回の北区政策会議は、本日いただいたご意見を踏まえましてご提示する新たな啓発施策の案についてご意見をいただく形で実施させていただきます。日程は令和5年7月頃を予定しております。日程調整の上、またお知らせさせていただきます。

それでは、以上をもちまして、本日の北区政策会議を終了させていただきます。本日はありがとうございました。